

サマープログラム体験記

名古屋医学部医学科 4 年

渡部 宥介

今回サマープログラムに参加させていただいた 4 年生の渡部宥介です。今回のサマープログラムを通して感じたことを時系列と共に記述していきます。海外の医療事情に興味があり、サマープログラムでアメリカや中国についての知識を吸収できることを期待して参加しました。

7/8 (月)

今回のサマープログラムは「日本の地域医療とイノベーションをつなぐ」という目標がありました。そのため、まずは根本である日本の社会保障制度の理解を海外の学生たちにしてもらうため、一番初めに同級生の松陰さんと私で日本の社会保険についてプレゼンしました。普段は社会保障制度について考えることは少なかったもので、プレゼンを準備する過程で日本の社会保障制度についての理解が深まりよかったです。トップバッターだったのでかなり緊張しましたが、プレゼンがうまくいき安心しました。午後は、病院見学を行い、その後研究室訪問を行いました。研究室はデューク大学の学生と共に医療行政学教室に行きました。医療行政学教室では、アジアの途上国から保健行政機関に勤務する医師を留学生として受け入れており、留学生の教育を主に行っています。参加した日は留学生のプレゼンを聞き、討論を行いました。夜はウェルカムパーティーが開かれ、親睦を深めました。

7/9 (火)

午前には老年医学が専門の Larson 先生の講義を受けました。実際の症例をもとに学生同士で議論するアクティブな授業でとても面白かったです。その後、名大のスタートアップで活躍している先生や先輩のお話を聞きました。名大にスタートアップ支援の環境があることすら知らなかったのもとても興味深かったです。午後は病院内にある xR センターの見学や、名大病院の IT 化についての講義を受けました。名大生である私でも知らないことばかりでしたので新しいことを知れてすごく面白かったです。

7/10 (水)

10 日から 1 泊 2 日で岐阜にあるかがやきクリニックさんへお邪魔しました。午前は海外の学生のみ訪問診療へ同行し（名大生は事前に訪問済み）、午後はかがやきクリニックを創設した名大の卒業生である市橋先生の講義を受け、さらにディスカッションを行いました。各国の地域医療事情や、学生が訪問診療を通じて感じたことを知れました。その後嚥下食を提供している CamCam Swallow で嚥下食を食べました。夜は鶏飼いを見学し公衆浴場へ行きました。日本文化を体験できてみんな嬉しそうで良かったです。かがやきクリニックのロッジへ戻った後、みんなで夜中まで話しをして親睦を深めました。

7/11 (木)

ロッジで朝ご飯を食べ、午前中はリハビリの見学を行いました。午後は和紙で有名な美濃市へ移動し観光をしました。その後ロッジに戻り国ごとにグループに分かれ、それぞれの国の未来の医療という題目でプレゼンを行いました。最後にロッジでお別れ会をし、名古屋へ戻りました。

7/12 (金)

午前中はグループに分かれ、この1週間で学んだことを中心に地域医療についての最後のプレゼンの準備を行い、午後にプレゼンをしました。改めてアメリカと中国の学生のプレゼンの準備のすばやさやプレゼンの上手さに感動しました。その後、臨床症例ディスカッション (CCD) を行いました。CCD は普段から名大で参加しており、結論を知っているため、今回は途中の班ごとのディスカッションでモデレーターを行いました。始まる前は緊張していたもののうまく学生を誘導することができよかったです。夜は大学近くの和食料理屋でお別れ会をしました。みんなと食事をしながら楽しく話すことができました。

さいごに

サマープログラムを通してアメリカや中国の医療事情について詳しくなれたのはもちろんですが、日本の、特に愛知岐阜の地域医療についての知識をつけることができて良かったです。また、勉強はもちろんですがみんなでご飯を食べたりして親睦を深められたのが楽しかったです。このような貴重なご機会を提供していただきありがとうございました。



